

# 平成30年度博物館施設評価集計シート（3月末最終）

施設名 歴史と民俗の博物館

## 1. 数値目標による評価

### (1) 全館共通項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達

	視点	項目	指標	目標値	評価	目標値の設定根拠	
				達成値		特記事項	
1	利用状況	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	150,270	人	未達	基準値:146,880人 目標参考値:150,262人
				129,250	人		
2	利用状況	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	55,060	人	未達	基準値:39,624人 目標参考値:55,051人
				39,751	人		
3	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	1,120	件	達成	基準値:1,112件 目標参考値:1,120件
				1,437	件		
4	利用状況	経営努力	観覧料および事業等収入額	14,391,000	円	未達	* 当該年度予算計上額
				12,599,567	円		

### (2) 館別独自項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達

	視点	項目	指標	目標値	評価	目標値の設定根拠	
				達成値		特記事項	
1	特別展・企画展	観覧者	特別展・企画展の観覧者数	34,559	人	未達	各特別展・企画展の目標観覧者数の合計
				22,979	人		
2	学校利用	出前授業	出前授業の実施校数	24	校	達成	昨年度実績による
				36	校		
3	学校利用	団体利用	学校団体の博物館利用校数	98	校	達成	昨年度実績による
				108	校		
4	資料管理	資料点検	年間の点検資料数	10,000	点	達成	資料点検年次計画による
				22,400	点		
5	利用状況	情報提供サービス	年間レファレンス対応件数	244	件	達成	昨年度実績による
				251	件		
6	利用状況	情報提供サービス	年間HPアクセス件数	573,784	件	未達	昨年度実績による
				469,531	件		
7	満足度	常置アンケート	アンケートでの常設展満足度	80	%	達成	昨年度実績85%
				88	%		
8	満足度	企画展・特別展アンケート	アンケートでの企画展・特別展満足度	80	%	達成	昨年度実績89% 回収616人分のうち大変満足・満足が529人
				86	%		

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	<p>1 博物館活動のベースとなる資料の収集、調査研究、保存管理体制の推進</p> <p>2 2020東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みとインバウンド対応</p> <p>3 「埼玉ならではの価値」を発信する魅力的な特別展・企画展の開催</p> <p>4 魅力的な常設展の運営と収蔵資料の活用</p> <p>5 学校教育との連携強化</p> <p>6 他施設等との連携強化</p>
事業の実施状況と過程	<p>1 博物館活動のベースとなる資料の収集、調査研究、保存管理体制の推進</p> <p>(1)文化遺産活用調査事業の実施と保存管理体制の推進</p> <p>①「無形文化財調査研究事業 巡り・廻りの民俗行事」調査の実施</p> <p>②「歴史遺産調査研究事業『新編武蔵風土記稿』総合調査」の実施</p> <p>(2)計画的に資料の点検及び保存状態の確認を行いつつ、保存環境の整備も推進</p> <p>2 2020東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みとインバウンド対応</p> <p>(1)太平記絵巻 巻第六の修復と展示環境の整備のための展示ケースを発注</p> <p>(2)ものづくり工房体験メニューの充実に向けた復活メニュー「編布づくり」を含む「夏休み！大昔の暮らし体験パック」を実施</p> <p>(3)国内外への情報発信体制の強化</p> <p>(4)館内の一部にWi-Fiを設置</p> <p>3 「埼玉ならではの価値」を発信する魅力的な特別展・企画展の開催</p> <p>(1)企画展「田んぼ」・「古文書大公開！」・「古代の官衙」、特別展「ダムと変わる！私たちの暮らし」「東国の地獄極楽」の開催</p> <p>4 魅力的な常設展の運営と収蔵資料の活用</p> <p>(1)収蔵資料を有効に活用した月ごとの展示替えを実施</p> <p>5 学校教育との連携強化</p> <p>(1)各市町村教育委員会主催による教員の年次研修の受入れ</p> <p>(2)県教育委員会主催の「子どもパワーアップ事業」への参加</p> <p>6 他施設等との連携強化</p> <p>(1)各展覧会ごとに、他の博物館・美術館・図書館等と共催・連携した事業を展開</p> <p>(2)企画展「古文書大公開！」を文書館との共催で開催し、県立熊谷図書館で古文書関連図書を展示</p> <p>(3)MVO連絡協議会の9施設による連携事業の実施</p>
事業の成果	<p>1 (1)①「巡り・廻りの民俗行事調査概要Ⅲ」を刊行し、『箕田の百万遍』DVDを作成した。</p> <p>②『新編武蔵風土記稿』に係るデータベースの整備を行った。</p> <p>(2)年間を通じて計画的に全職員でIPMと資料確認作業を行い、安定した保存環境を維持できた。</p> <p>2 (1)『太平記絵巻』巻第六の修復を完了した。また新たに展示ケースを購入し展示環境の整備を図った。</p> <p>(2)ものづくり工房での体験メニュー利用者は、昨年よりやや増加して9281名であった。</p> <p>(3)東京オリンピック・パラリンピックに向けて、県内博物館施設8館合同の「SAITAMAおもてなしミュージアム」HPを開設した。</p> <p>(4)2月から館内の一部で供用を開始した。</p> <p>3 (1)特別展・企画展には22,979人の入館があり、満足度は目標値を超えて86%に達した。</p> <p>4 (1)年間で20回実施し、撤収資料点数778点、新展示点数791点であった。</p> <p>5 (1)教員の年次研修や教員向けのセミナー等16回実施し、225名の参加があった。</p> <p>(2)平成31年度実施に向けて準備を行った。</p> <p>6 (1)特別展「東国の地獄天国」では県立久喜図書館と、企画展「古代の官衙」ではさきたま史跡の博物館との連携事業を行うとともに、特別展「ダムと変わる！私たちの暮らし」では国交省の協力を得てバスツアーを実施した。</p> <p>(2)企画展「古文書大公開！」を7月14日から9月2日に文書館と共催で実施し、県立熊谷図書館では関連展示「はじめての古文書」が行われた。</p> <p>(3)11月1日から2月11日までスタンプラリーを実施し、達成者には景品を贈呈した。</p>

基礎データ

職員数 (学芸員数)	34人 (24人)	総予算額 (人件費を除く)	103,428,000円	職員一人あたりの県民人口	21.5万人
収蔵資料総点数 (H30.3末現在)	125,041点	事業経費 (上記の内数)	73,829,000円	利用者一人あたりのコスト (平成29年度)	730円
平成29年度 収集資料点数	623点	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	14,391,000円 (6,683,300円)	県民人口に対する利用者割合 (平成30年度)	2.06%

(注)平成30年4月1日現在の埼玉県推計人口は7,310,982人である

2. 全館共通項目チェックリスト

歴史と民俗の博物館

評価基準

完了または順調に進捗していて問題がない状態	A
着手状態乃至課題が残されている状態	B
未着手状態	C

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
資料の収集	① 資料の収集方針、収集計画を策定しているか	A	資料収集方針
	② 収集方針、収集計画に基づき資料収集を行っているか	A	収集点数 21件954点
	③ 特色あるコレクションの形成に努めているか	A	埼玉県関係資料
	④ 有形資料に限らず、映像資料や情報資料等も積極的に収集しているか	A	巡り・廻りの民俗 行事調査
	⑤ 収集した資料についての調査を実施し、調書を作成しているか	A	作成済
	⑥ 客観的な評価を経て購入・受け入れをしているか	A	資料評価会 議開催
	⑦ 規定の資料台帳を整備し、資料を登録しているか	A	収蔵資料管理 台帳による
	⑧ 規定の収集資料ラベルを設け、資料に添付しているか	A	同上
	⑨ 資料の基本データ記録を作成し、管理しているか	A	同上
	⑩ 収集時に資料の殺虫処理・クリーニングを適切に行っているか	A	同上
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項が整備されているか	A	収蔵資料管理 要項
	② 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項を職員に周知し、それに基づいた資料の保存管理を実施しているか	A	IPM委員会の開 催(年2回)
	③ IPMの考えに基づいた資料の保存管理について、最新情報の収集や研修を行っているか	A	IPM研修の 実施(月2回)
	④ 資料特性に即した適切な収蔵施設を整備しているか	A	IPM及び空 調管理等
	⑤ 収集資料の清掃・修理等を適切に行っているか	A	月2回実 施
	⑥ 有害生物・室内ガス・光種等のモニタリングを実施し、その結果に基づき適切な対処をしているか	A	月1回実 施
	⑦ 資料の殺虫・殺菌処理を適切に行っているか	A	燻蒸・忌避剤 散布の実施
	⑧ 温湿度の日常的な管理・記録化等を行っているか	A	通年測定及 び記録化の 実施
	⑨ 光量の管理を適切に行っているか	A	適正照明具の使 用、資料別光度測 定
	⑩ 資料の所在確認作業を定期的に行っているか	A	月2回資料点検を 実施
	⑪ 資料の劣化状況を定期的に確認しているか	A	月2回のIPM作 業・資料点検時等 に確認
	⑫ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的かつ必要に応じて行っているか	A	刀剣手入れ 等
	⑬ 借用資料・寄託資料の更新手続きは適正に行われているか	A	承諾書等の定期 的更新を実施

項目	チェック内容		評価(A~C)	備考
資料の保存管理	⑭	資料のデータベースを整備するとともに、情報を適宜更新しているか	A	収蔵資料データベース
	⑮	収蔵庫の入退室管理簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	収蔵資料管理要項による
	⑯	収蔵資料の出納簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	同上
	⑰	収蔵庫の鍵を適正に管理しているか	A	同上
資料の活用	①	収蔵資料の活用に関して規程・手続きを整備しているか	A	資料特別利用、資料館外貸出規定等
	②	収蔵資料の活用に関する手続き等を公開しているか	A	申請書等のHP公開
	③	収蔵資料を展示に活用しているか	A	活用点数611点
	④	収蔵資料の館外貸し出しに適切に対応しているか	A	貸出点数18件66点
	⑤	収蔵資料の特別利用(熟覧・撮影等・原板利用等)に適切に対応しているか	A	利用点数138件904点
	⑥	資料の基礎情報・解説付目録(紙・電子)を適宜作成・更新・公開しているか	A	25年3月公開
	⑦	収蔵資料をホームページ等で紹介・更新しているか	A	適宜更新
常設展示	①	資料の展示環境を適切に管理しているか	A	空調・露光・設置・観覧者との接触等
	②	展示関連のサイン・パネル等がわかりやすいか	A	視認性を考慮したサイン・パネルの設置
	③	展示室内に監視員や監視カメラ等を配置しているか	A	監視員・警備員の配置
	④	展示情報を適宜修正・更新しているか	A	適宜実施
	⑤	展示設備等を適宜点検しているか	A	閉館・閉館時の巡回点検
	⑥	展示ガイド等を作成しているか	A	解説リーフレットを充実させることに移行
	⑦	解説リーフレット等を作成しているか	A	展示室ごとに作成、配布
	⑧	展示解説等を適宜実施しているか	A	ボランティアガイド 学芸員展示解説
	⑨	観覧者アンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	来館者アンケート
	⑩	アンケート結果に基づいた展示改善を実施しているか	A	アンケートの集計・分析により適宜対応
	⑪	県民に対し展示情報を適宜発信しているか	A	HP、月別イベントチラシ等
学習支援事業	①	事業情報を利用者に広く発信しているか	A	HP、SNS、月別イベントチラシ等
	②	多様な媒体による参加申し込み方法を用意しているか	A	電話、葉書
	③	多様な参加者を想定したプログラムを用意しているか	A	体験メニュー及び特別体験メニュー
	④	参加者に対しサポート体制を整備しているか	A	体験ボランティアの養成・配置、外部講師による講座の実施

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
学習支援事業	⑤ 事業実施にあたり参加者の安全に配慮しているか	A	用具の管理及び注意喚起
	⑥ 参加者を対象としたアンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	参加者アンケートの実施
	⑦ アンケート結果に基づいてプログラムの開発・改善を行っているか	A	既存プログラムの改良改善、新規開発の調査等を実施
	⑧ 来館者用の図書・情報コーナーを設けているか	A	学び文庫
	⑨ 学芸員実習やインターンシップの学生を受け入れているか	A	学芸員実習、インターンシップ
県民との連携・協働	① ボランティア制度を導入しているか	A	展示解説ボランティア・体験ボランティア
	② ボランティアの活動に関する規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティア設置要綱、活動細則
	③ ボランティアの募集・認定の規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティア設置要綱、活動細則
	④ ボランティアの研修システムが確立され、適切に実施されているか	A	ボランティア研修会、定例会の開催
	⑤ ボランティアの活動成果が公開されているか	A	館HPで公開
	⑥ 友の会、NPO等が館事業に参加する機会を設けているか	A	友の会共済事業、ゆめ・体験ひろばイベント
	⑦ 地域社会で実施されるイベント等に館として積極的に関わっているか	A	大盆栽祭り、区民祭り
調査研究活動	① 調査研究テーマを定めているか	A	要覧等に明示
	② 調査研究のための予算措置等に努力しているか	A	文化遺産調査活用事業の実施
	③ 調査研究活動を遂行するために必要な専門研修に参加し、館内に情報提供しているか	A	学芸員研修体系に基づき実施
	④ 収集している資料に関連する専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	無形民俗文化財・歴史遺産の調査、紀要執筆他
	⑤ 資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	A	研修への参加等
	⑥ 地域貢献の視点から、館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	A	無形民俗文化財・歴史遺産の調査、紀要執筆他
	⑦ 学芸員個々の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	紀要執筆他
	⑧ 他館や他機関との間で共同研究等を行っているか	A	ミュージアムフォーラム他
	⑨ 調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	A	歴史民俗講座、紀要執筆
	⑩ 調査研究の成果を、社会貢献の視点から国、市町村、地域社会等にさまざまな形で還元しているか	A	県政出前講座他
施設・アメニティー	① 施設の維持・改善についての計画を策定しているか	A	優先順位と予算をもとに検討
	② 展示室、収蔵庫などで耐震対策を行っているか	A	テグス留め、ネット掛け他
	③ 危機管理マニュアルを整備しているか	A	30年5月改訂
	④ 防災・救急訓練等を定期的実施しているか	A	消防訓練、地震訓練及び救命講習を実施
	⑤ 休憩コーナー、授乳コーナー、喫茶コーナー等を設置または状況により対応しているか	A	無料スペースに設置
	⑥ レンタル用の車椅子、ベビーカーは整備されているか	A	車椅子8 ベビーカー2

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考	
施設・アメニティー	⑦	バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	A	施設設備点検の実施
	⑧	一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	A	障害者用2台分
	⑨	手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	A	エレベーター、階段昇降機の配備
	⑩	利用情報や館内サインはわかりやすく表示されているか	A	ピクトサインの採用、サインの改修
	⑪	館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	B	一部対応しているが、未着手箇所あり
	⑫	利用実態に応じて開館時間を設定しているか	A	夏季の延長を実施
	⑬	便益施設として利用者数に見合った施設・設備を確保しているか、または状況に応じて対応しているか	A	団体のバス利用は臨時駐車場を確保
施設の利活用	①	施設利用のための要項、マニュアルを策定しているか	A	管理規則、様式第3号
	②	施設利用のための情報を公開しているか	A	館HPに利用案内を公開
	③	施設を一般の利用に提供しているか	A	講堂・講座室
	④	施設を学校団体等の利用に提供しているか	A	講堂・無料休憩コーナー
	⑤	施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	A	ミュージアムウィレッジ大宮公園他
	⑥	地域や他施設・機関・学校等との連携を図っているか	A	各種スタンプラリー実施

3. 館別独自項目チェックリスト

歴史と民俗の博物館

歴史と民俗の博物館				
評価基準				
完了または順調に進捗していて問題がない状態			A	
着手状態乃至課題が残されている状態			B	
未着手状態			C	
項目	チェック内容		評価(A～C)	備考
特別展・企画展事業の実施	①	中・長期的な展示計画を策定し、特別展・企画展を実施しているか	A	中期計画を策定
	②	県民ニーズや時代の要請を踏まえて、時宜を得た特別展・企画展を開催しているか	A	アンケートの要望を参考
	③	調査研究成果の蓄積や、最新の学術情報を反映した特別展を開催しているか	A	新出資料の展示、記念講演会開催
	④	全国の博物館や文化財所有者との連携による特別展を開催し、県民に日本の優れた文化遺産を積極的に公開しているか	A	夏季企画展 秋季特別展
	⑤	模範的、先進的な展示手法を用いた特別展を開催しているか	A	適正な展示環境の確保、産業廃棄物の縮減
	⑥	展示観覧者アンケートにより満足度・ニーズを測定し、以後の展示事業に活かしているか	A	展覧会ごとに観覧者アンケートを実施
	⑦	展示観覧者の目標数を設定し、その達成に努力しているか	A	年間目標値を設定
	⑧	展示内容に則した弾力的な広報活動を実践しているか	A	展覧会ごとに広報先を選定
中核的施設としての活動	①	勧告・承認施設として資料を公開しているか	A	国宝太刀・短刀、国宝慈光寺経、重文熊野神社境内古墳出土品他
	②	公開承認施設として資料を公開しているか	A	重文東山遺跡出土瓦塔・瓦堂、重文三十六歌仙額他
	③	県内の博物館職員を対象とした研修会・見学会等を実施しているか	A	11月に「刀剣手入れ」研修を実施
	④	県内の博物館施設を対象とした協力・支援事業を実施しているか	A	埼博連会長館及び事務局
	⑤	県外博物館施設との相互協力事業を実施しているか	A	夏季企画展 秋季特別展
	⑥	県立博物館施設相互の連絡調整を図っているか	A	総合調整推進会議
ゆめ・体験ひろばの運営	①	地域の文化資源を活用した博物館ならではのプログラムを提供しているか	A	ものづくり工房体験メニュー、特別体験メニュー
	②	埼玉の歴史や文化の理解につながるプログラムを提供しているか	A	ものづくり工房体験メニュー、特別体験メニュー
	③	いつでも、手軽に参加できるプログラムを提供しているか	A	ものづくり工房体験メニュー
	④	世代間交流ができるプログラムを提供しているか	A	お囃子体験教室、ペーゴマ教室他
	⑤	常設展示室と連携したプログラムを提供しているか	A	展示室ワークシートの実施
	⑥	多様なマンパワーが参画・協働できるプログラムを提供しているか	A	昭和の原っぱイベント他
	⑦	地域と連携したプログラムを提供しているか	A	特別体験事業
	⑧	学芸員の専門性をプログラムに反映しているか	A	ものづくり工房体験メニュー
伝統文化の記録・公開・継承	①	県内の民俗文化財に関する資料の記録化に取り組んでいるか	A	巡り・廻りの民俗行事調査
	②	展示や公演をとおして県内の民俗文化財を県民に公開しているか	A	有形民俗文化財長板中型・青織の展示
	③	県内の民俗文化財の継承につながる講習会等を実施しているか	A	民俗芸能講習会「秩父屋台囃子」
	④	伝統文化継承者、伝統技術保持者の支援・育成に努めているか	A	文化振興基金助成審査委員

平成30年度 博物館施設 総合評価 (3月末最終)

施設名 歴史と民俗の博物館

		達成	未達
全館共通	数値目標による評価	1	3
各館独自	数値目標による評価	6	2

		完了A	課題有B	未着手C
全館共通	チェックリストによる評価	89	1	0
各館独自	チェックリストによる評価	26	0	0

自己評価総括

評 価	<p>1 利用者数は前年度に比べて大幅に減となった。しかし、2月は国宝短刀の公開に合わせてゲームキャラクターとコラボレーションすることで、多くの観覧者が来館したため、例年よりも利用者数が上がった。</p> <p>2 展示に関するアンケートにおける満足度は高く、とくに常設展の満足度は前年度を大きく超えて88%に達した。企画展と常設展を関連させる展示内容にしたり、キャラクターによるわかりやすい解説パネルを設置するなど、展示に工夫をしたことが、一定程度の評価を得たものと思われる。</p> <p>3 出前授業や団体見学などの学校利用数は増加しており、教員研修や教員向けセミナー等の開催により、学校への周知が進んでいると思われる。</p> <p>4 HPのアクセス数はやや減っているものの、対マスコミ情報発信件数やレファレンス対応件数は増加している。</p> <p>5 資料の保存・管理に関しては、年間を通じて計画的に全職員でIPMと資料確認作業を行っており、安定した保存環境を維持できた。</p> <p>6 インバウンド対応では、オリンピック・パラリンピックを見据えた「県立博物館8館合同ホームページ」を開設するとともに、館内の一部にWi-Fi設備を設置して利用を開始したことで、インターネット関係の利便性を高めることができた。</p>
課 題	<p>1 入館者数の伸び悩みへの対応、特に特別展・常設展示における新たな取り組みが求められる。</p> <p>2 マスコミへの情報発信に関する新たな取り組みが求められる。</p> <p>3 インバウンド対策として、常設展のコーナーパネルや見学のしおりの多言語化等、早急な対応が求められている。</p>
対 応 の 方 向	<p>1 学芸各担当で協力しながら、特別展・企画展に関する広報に力を入れるとともに、常設展示の魅力も積極的にPRすることで集客を図る。</p> <p>2 ゆめ・体験ひろばでの通常体験メニューの楽しみ方やその魅力を発信するとともに、新しい体験プログラムを開発して、利用者の裾野を広げ、利用者の増加を図る。</p> <p>3 インバウンドに対応できるハード面・ソフト面の整備・充実に向け、館内で検討し、2020オリンピック・パラリンピックへの対応を図る。</p>



## 評価結果に対するコメント

### 1. 全体に係る評価

各館協議会・委員会の意見

- 地域の方の中には、月に何回も博物館に足を運ぶくらい興味がある方がいる。地域の方の声を反映させていくことが大切である。
- 人にたくさん来てもらえる企画展も必要だが、質的にいい展示を目指すことも大事である。来館者の目標数が必ずしも右肩上がりになる必要はない。
- 寄贈が増えているということは博物館が信頼されている証拠。収蔵庫等の保存管理に係るインフラの拡充を図るべきだと声を上げてみてもよいのではないか。
- 来観者数を増やしていくのは大変だが、アウトリーチを増やすことは大切。
- 特別展オリジナルグッズやコラボ企画でのカード作成等、よい取組だった。
- ゆめ体験ひろばの参加者に対して、発見や気づき、満足度等を聞いて次に生かせるよう、ボランティアや職員がスキルを磨いていく必要がある。
- 2020年に向けて、体験メニューなどにもインバウンド対応の事業を盛り込んでほしい。

### 2. 全館共通項目に係る評価

評価小委員会の意見

- 利用者数については目標未達であるが、自己評価総括に「利用者数は前年度に比べて大幅に減った。しかし、(中略)例年よりも利用者数が上回った。」とあることからすると、見込み幅の大きすぎる目標値設定であったのではないかと考える。目標値の設定は数年の平均値などによって算出する方法でよいと考える。
- 利用状況の利用者数及び予算計上額の未達については、数値のみの達成が目標になっては県の文化行政を中心的に担っていくべき県立博物館の本務が疎かになることが心配される。文化的・学術的に内容の充実した展示であれば、当然来場者は多くなるもので、そのためには十分な準備期間をもって学芸員の専門性を最大限に発揮できるテーマの設定が重要であると考えられる。企画展示にも内容の充実した図録の販売があると、収入の増加にもつながると思われる。
- 常設展示スペースに設けられた小テーマ展示も興味深いものが多かったが、広報が不十分だったように思われるので、今後は広報に工夫が求められる。例えば、県内自治体の博物館・資料館の学芸員等にテーマ展示の宣伝を兼ねて、常設展示の招待券(割引券)を配布することはできないだろうか。
- 事業情報の発信としては、ホームページの収蔵資料の紹介コーナーの充実をお願いしたい。他県の博物館のホームページに比べて紹介点数が極端に少ないと感じられる。
- 特別展「東国の地獄極楽」のオリジナルクリアファイルは、図録とともに楽しめるデザインで、多くの方に好評だったのではないだろうか。

○一項目を除いたおおよその評価項目においてA評価を達成しており、公共博物館としての意義を達成していると考えられる。

○利用者数については、気候や他イベントの影響など、本館における経営努力以外の影響をも受けるため、この点の結果に一喜一憂すべきではないと考えられる。他の指標とのバランスをとりながら、長期的な視野で経営を考えていただくことが重要である。

○上記の意味で、利用者の「満足度」を継続的に検討していくことは重要である。「企画展・特別展アンケート」では、昨年よりも若干3パーセントであるが減少した。結果だけを見て経営努力の程度を即断すべきでないことはこの点についても同様であるが、企画展・特別展に対する本館の多大な運営努力に鑑みれば不本意な結果である。本館が企画展等に精力的な取り組みを見せていることをふまれば、例えば「フォーカスグループインタビュー」などをとりいれた形で、新たな博物館企画方法の開発や、それらに基づく満足度上昇施策を打ち出すこともできるのではないかと拝察する。

○「全館共通項目」、すなわち「数値目標による評価」の全館共通項目、「全館共通項目チェックリスト」をみると、「数値目標による評価」には未達事項があるが、「全館共通項目チェックリスト」ではA評価89、B評価1であり、博物館としての使命を十分に果たしているといえる。

○「数値目標による評価」の全館共通項目のうち、「利用者数」「常設展観覧者」「広聴・広報」は昨年度実績を基準に目標参考値・目標値を設定しているようであるが、平成29年度は特別展がとくに好評で、そのため「利用者数」「常設展観覧者」「経営努力」ともに当該年度の目標値を大幅に上回った年度であったはずである。このような年度の数値を目標・目標参考値の基準にすると、未達が大きく出ることがあり得るのはむしろ当然である。社会教育施設である博物館の使命をふまえるならば、右肩上がりの数値目標設定を常に行う必要があるか疑問であり、未達事項が出たからといって、即座に評価を下げる必要もまたないと考える。「事業情報の発信」は昨年度よりも多く実施し「達成」しているのであるから、数値に照らしたとしても、当館が自助努力を怠っているとはいえない。また、アンケートによると常設展展示の満足度が前年度を大きく超えていることも当館の努力のあらわれであると評価できる。

○課題としてあげられた「入館者数の伸び悩みへの対応、特に特別展・常設展示における新たな取り組みが求められる」ということ自体は確かである。だが、仮にその取り組みが特定の分野・テーマへの選択と集中という方向に向かうならば、長期的には当館の活動を狭めることになるかと危惧する。当館の強みは、歴史(文献史学・考古学・美術史学)と民俗(学)の協働による総合的な博物館たることにあると考える。この強みを活かした常設展・特別展を継続し、かつ数値目標と同等に質的評価が重視される仕組みや論理を構築することを模索する時期に来ているのではないかと考える。